

益城の文化財 (33)

広崎の神楽社 (広崎)

神楽社は広崎地域の氏神で、祭神は日本国造りの神・五穀豊穡を司る自然神「伊弉諾命」・「伊弉冉命」とされています。

神楽社の「カグラ」とは、神霊を招き降ろし、神の鎮魂のために祈禱する舞楽である「神楽」、他に、稲穂の穀霊（うかのみたま）を招き降ろし、祭祀儀礼を行う場所としての「神倉」という意味があります。

神楽社の創祀については不詳ですが、古くは広崎北原地区に「カクラの上」と呼ばれる場所に集落を形成し、氏神として祀ったことが考えられています。その後、秋津川の南側一帯が水田となり居住域が広崎居屋敷地域に移ったことから、現在の場所に遷座されたと思われます。

現在の神殿・拝殿は、平成16年に改築されたものです。また境内には、「影向石」（神霊が立つ石）と呼ばれる自然石があり、鎌倉末期から室町時代にかけて成立した山王信仰の形態がみられます。

例祭は9月25日、節頭渡しは10月15日です。



神殿・拝殿



影向石

益城町文化財保護委員会

わがまち 再見

⑫

くまもと半導体展示ホール

田原の熊本テクノリサーチパークの中核機能を持つ財団法人くまもとテクノ産業財団一階に「くまもと半導体展示ホール」が開設され、そのオープニングセレモニーが十一月十三日、開かれました。

◆三菱電機が進出第一号

一九六七年、半導体関連企業としては初めて県内に進出した三菱電機熊本工場の操業開始とNECの工場建設から四十周年になることを記念して開設されることになり、県や同財団、産学官で構成するセミコンフォレスト推進会議（会長・崎元達郎熊本大学長）が準備を進めてきました。

展示ホールは、約二百三十平方メートル。メイン展示場には、くまもと半導体四十年の大型年表やホンダソルテック、富士フイルム九州、富士電機システムズ、平田機工、東京エレクトロン九州、HOYA、三菱電機など、グローバルなIC企業群の製品や模型が並べられています。

半導体 40 年の歴史と未来示す



そのほか、半導体製造工程や現代の日常生活のあらゆる部分に関わっている半導体の利用実態なども細かく説明されており、小学生の社会や理科学習の場としてもふさわしいところです。

◆団体の見学も歓迎

展示場のある一帯には、緑豊かな樹木と芝生広場や西洋ガーデンもあり、ファミリーの行楽と見学にもぴったり。

開館時間は午前九時から午後五時までで、土日祝日は休館。入場無料。

団体などの見学申し込みは同財団の「プロジェクト推進室」。

(T)

☎ 096 (286) 3311。